

子どもの言葉の奥にある心音を聴く



津市の学校では本年度よりこれまでの一斉型授業スタイルからの脱却をすべく①授業改善とともに幼児教育との接続を目的とした②津市架け橋プログラムの2つのことを重点的に取り組んでいます。実はこの2つは別個のものではなく、授業改善をしていく上で、幼児教育の中でこれまで大切にしてきたこと（教師の視線、支援、環境整備等）が非常に

大切になってきます。そのため、私は6日には三重県幼児教育研究協議会に出席し、文部科学省の調査官の話聞かせてもらうとともに21日には幼児教育に関わる教師の実践報告会に参加し、幼児教育について少しですが学ばせていただきました。報告会では16名中15名が幼稚園・子ども園の関係者で、最初、小学校関係として私1人がその場にいることに大きな違和感がありましたが、意見交換をしていく中で「教師が1人1人の内面までよく見ていること」「教師自身も楽しんでワクワクしていること」ということがとても印象的でした。（上の写真は津市架け橋プログラムにかかる校内研修の様子）

有名な漫画家の手塚治虫さんが人生の恩人として名前を挙げたのは小学校の先生だったそうです。子どもの頃から漫画を描くことが好きでノート1冊分に描いた漫画を授業中に友だちが読んでいて、手塚さんは休み時間に担任の先生に呼び出されたそうです。怒られると思って職員室に行くと「よくできている。もっともっと漫画を描きなさい」と言われたそうです。担任の先生は子どもたちがどんな思っているのか…普段からよく見ていたからその確信の言葉が言えたのだと思います。教育にとって大切なことは、理想と言われるかもしれませんが、子どもの声を聴くとともにその奥にある心音を知ることであると思います。現状、職員は日々、異常なほどの多忙さの中、業務をこなしてくれています。しかしながら「忙」は「心が亡くなる」と書きます。そうならないためにも、教師が児童をしっかり見て、関わる心の余裕をもてるよう、業務のさらなる見直しもしていかなければならないと思います。保護者・地域の皆様には今後とも何かとご理解・ご協力をお願いします。

活躍する子どもたち



学校から帰ったあとや休日にサッカーやソフトボール、ミニバスケット、バトミントンなどのスポ少に所属したり、ピアノ、スイミング、体操などの習い事に通ったりして一生懸命頑張っている子どもたちがたくさんいます。1学期には高学年児童3名が将棋において県大会で準優勝をしたと報告がありました。また、夏休み中にはソフトボールチームが今年度は人

数の関係で合同チームとして参加し、津市の大会で優勝したと校長室を訪問していただきました。結果が出るとか出ないとかではなく、今、一生懸命取り組んでいることは将来、困難にぶつかった時に大きな力となってくれることと思います。